

平成25年度 知床世界自然遺産地域
第2回 適正利用・エコツーリズム検討会議
議事概要

◇日時 平成26年3月26日（水）13：30－16：30

◇場所 斜里町産業会館 大ホール

◇会議次第

開会

あいさつ

議事

1. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案について
2. 検討部会からの報告
3. 知床エコツーリズム戦略 事務取扱要領について
4. 個別部会等からの報告
5. 適正利用・エコツーリズム検討会議の今後のあり方について
6. モニタリング調査について
7. 適正利用・エコツーリズムWG委員等からの情報提供
8. その他

閉会

◇議事概要

【 開会 】

【 あいさつ 】

■ 1. 知床エコツーリズム戦略に基づく提案について

◇先端部エコツアー

- 先端部エコツアーについて、提案者の知床羅臼観光協会より説明（資料1-1）。
 - ・目的を漁業活動の伝承に絞ることとしたため、事前に配布資料の内容と若干異なる。
（スライド：岬の漁労活動に関わる写真の紹介）
 - ・知床羅臼観光船協議会より補足。岬に多くの番屋があった時代でも写真を見てわかるようにごみが落ちていない。岬に人が入ることで自然環境を守ってきた歴史を伝承していきたい。
 - ・漁業の歴史を伝えながら自然についての理解も深めたい。
 - ・提案の対象区域は番屋周辺に限定している。
 - ・実施時期は7月中旬から8月中旬で約40日間程度を想定しており、海が時化した場合や

船外機の数などを考慮すると実施期間中の利用者数は 100 名程度と考えている。

○先端部エコツアーについての意見

- ・ これまでに策定されている法律や申し合わせ等との整合性を考慮する必要がある。
- ・ ルサフィールドハウス等の既存施設を活用すべきである。
- ・ 申し合わせ等が策定されてから長い年月が経っており見直しが必要である。
- ・ 先端部の立ち入りが教育目的であれば一般観光と区別できる。
- ・ 科学委員会に経済分野での専門家を入れる必要がある。

○部会設置の承認

- ・ 部会設置が承認された。

◇知床五湖冬季利用促進事業検討部会について

○部会の事務局である斜里町より、部会の進捗状況について説明。(資料 2-1)

- ・ 平成 27 年 1 月から試行的な実施を行い、想定される問題について検証を行っていきたい考えである。事業内容について承認をいただき協議会の設置を望む。

○提案者である斜里町観光協会より、事業内容について説明。(資料 2-1)

- ・ この事業の実施にあたる収支がマイナスとなっているが、宿泊等の経済効果を考えると地域にとってプラスになると試算している。
- ・ 行くだけが目的でなく既存の施設利用についても考えている。
- ・ 冬の知床は特別であるということを説明したい。
- ・ ガイド事業者の冬の収入に繋げたい。
- ・ 入込数の目標達成は事業実施後すぐにできるとは思っていないが、現在の流氷ウォークの年間利用者 4000 人という数字から実現可能であると考ええる。
- ・ 金額についてはガイド利用料 10,000～12,000 円を考えている。

○知床五湖冬季利用促進事業検討部会に対する意見

- ・ 提供側が利用者に具体的に何を伝えようとしているかが明確でない。
- ・ 安全対策についての認識や検討が甘い。
- ・ エコツーリズムは自然保護と経済が伴わなければ成り立たない。
- ・ 実現に向けた提案者の思いが提出された資料に反映されていない。
- ・ バス利用における具体的な体験が明確でない。
- ・ 行政の枠にとらわれない踏み込んだ議論を望む。

○知床五湖冬季利用促進事業検討部会への提案

- ・提案内容のコンセプトを明確にする。
- ・どのような手段でコンセプトをはっきり伝えられるか明示する。
- ・具体的な行程や行程管理について資料をまとめる。

○知床五湖冬季利用促進事業検討部会の継続検討の承認

- ・知床五湖冬季利用促進事業検討部会の検討を延長し、平成26年6月予定の第1回検討会議までの継続検討について承認された。

■ 2. 検討部会からの報告

◇知床ロングトレイル・プロジェクト部会

- 提案者の知床ガイド協議会より、部会の進捗について説明（資料2-2）。

○ロングトレイル・プロジェクト部会に対する意見

- ・プロジェクトを実現するための法制度等の課題を整理できているか。
- ・そもそも実現可能なかどうか。見込みはあるのか。
- ・環境省としては、地域にもよるが、法的な規制をクリアしなければいけなく、実現にむけて課題は多い。いまは課題を整理している段階で、現時点では議論の方向性は不明で、提案の取り下げもありうる。今後の部会の検討による。
- ・環境省では、長距離自然歩道の整備など、国立公園や自然遺産地域を歩いて利用するという利用方法を進めている場所もあり、そういう観点からもこのプロジェクトに関心を持っている。ただ、部会として、まだどういう議論になるかわからない部分があるので、どのように関わっていくかはわからないが、場合によっては、前向きに関わっていくという可能性もある。
- ・森林管理局としては、法制度上の問題はクリアできると考えている。できる部分では協力したい。
- ・報告であるが、知床財団は、知床100平方メートル運動地にある開拓時代の道路などを、歩いて体験してもらうということを検討している。斜里町と相談しながら進めたい。
- ・トレイルの設置、利用というのは、今後の知床世界遺産地域の価値の体験する上で、非常にポイントになる手段だと考える。
- ・トレイルができるということは、世界遺産の中に人の新しい動線ができるということ。適正な配置などを検討していく中で、明確になってきた課題をフィードバックして共有して欲しい。
- ・事務局に提案だが、ロングトレイル・プロジェクトが実施された場合、利用者がどのような体験ができるのか、どう満足できるのかということを、提供する側が具体的にイメージして欲しい。

◇知床ヒグマえさやり禁止キャンペーン実行委員会

○事務局 斜里町観光協会より、キャンペーンの実施状況について説明（資料 2-5）。

・会議は、これまで実行委員会 5 回、その他の会合を 1 回開催した。キャンペーンの取り組みは、啓発品の作成、缶バッジの着用、配布、車へのマグネットステッカー貼り付けなどロゴ等を活用した啓発活動、ポスターの掲示、ホームページの開設、映像の放映などを行った。

○知床ヒグマえさやり禁止キャンペーン実行委員会に対する意見

・北海道に聞きたい。生物多様性保全条例の中で、餌付けの禁止行為として、ヒグマの餌付けが指定行為になる可能性はどうか。

・昨年度末に生物多様性の保全に関する条例ができて、その中に指定餌付け行為に関する禁止が定められている。何が指定されるかは今後審議されることになっているが、時期はまだ未定。

・岩尾別川でのカメラマンとヒグマとの接近は、えさやり禁止キャンペーンでは、対応できない事態でもあり、利用者とヒグマの関係について、環境省としてどう整理していくかという大枠を検討してもらいたい。

◇知床沼の野営禁止によって生じた諸問題とその解決に向けた提案

・事務局の羅臼山岳会より、部会の進捗について説明（資料 2-6）。

・前回会議での指摘事項に対応して、知床沼の希少な湿原植生が適正に保全されるよう、必要な対策を講じることとして、禁止解除の地域をロープで明確にした。影響把握として、植生のモニタリング、撮影定点の設定、入林簿等から利用者数を把握した。

・まだ利用人数は少ないが、成果として、今年実際に地元のガイドが知床沼の野営箇所を利用して、安全に登山ができたということが良かったと思う。

■ 3. 個別部会等からの報告

◇知床五湖地区における取組の進捗状況

・事務局より説明（資料 4-1）。

・利用調整地区の状況として、今年はヒグマ出没回数が減少し、地上遊歩道が安定的に利用できた。

・協議会において、利用者の増枠、限定的な 2 ルート併用が承認され、知床五湖利用適正化計画の改定について告示の改正。

◇カムイワッカ地区における検討の進捗状況

・事務局より説明（資料 4-2）。

・安全対策のための左岸補強工事に伴って、平成 26 年シーズン後に仮橋を撤去すること

が決定した。撤去後の巡回場所を選定し、平成 27 年シーズンに間に合うように整備することとなった。

- ・平成 26 年以降 3 年間のマイカー規制期間について協議し決定。

◇ウトロ海域における取組の進捗状況

- ・事務局より説明（資料 4-3）。
- ・知床ウトロ海域環境保全協議会の取り組みとして、海鳥 WEEK を設定し各種イベントを行った。
- ・協議会の自立化、海域観光の充実、海域環境のエコツアー化、野生動物と人との適正な関係の幅広い周知等を目的として、知床海のハンドブック（ウトロ版）の製作を進めている。

■ 4. 知床エコツアーリズム戦略 事務取扱要領について

- ・事務取扱要領の改正案について説明（資料 5-1）。
- （承認）

■ 5. 適正利用・エコツアーリズム検討会議の再編について

- ・検討会議の再編案について説明（資料 5-2）。
 - ・今後は、エコツアーリズム戦略に基づく議論の仕組みを適正に運用していくことを基本とし、主要な議題、構成員と委員の構成、構成メンバーの役割等の体制に関して再編する。
- （承認）

■ 6. モニタリング調査について

- ・事務局より平成 26 年度のモニタリング計画案について説明（資料 6-2、6-3）
- ・適正利用・エコツアーリズム関連調査の方針に基づいて、平成 26 年度のモニタリング計画案を作成した。ほかに調査を予定していることがあれば、さらに盛り込んで会議全体で共有したい。

■ 7. 適正利用・エコツアーリズム WG 委員等からの情報提供

◇ヒグマ餌付けの危険性

（間野委員）

- ・イエローストーン国立公園の例を紹介。
- ・ヒグマ対策の最重要事項として、駆除によって個体数を減らせばよしとする考えから踏み出して、餌付けを防ぎ、問題個体の発生を防がなければいけない。

◇知床ヒグマえさやり禁止キャンペーンを大学生はどう見たか？

(庄子委員)

- ・キャンペーンのビデオを見せ、それに対する感想を書いてもらった。67名の大学生から回答を得た。
- ・多くの大学生がビデオを通じ野生動物にエサを与えてはいけない理由を初めて理解し、納得している点で、キャンペーンの意義は大きいと言える。
- ・ヒグマにエサを与えてはいけない意図は、訪問経験者に伝わっていない可能性があり、キャンペーンの効果検証と、どうやれば適切に伝わるのかを検討する必要がある。

【 閉会 】